

# 「メジャーから誘われたら、どうする？」 トップ選手がパナソニック、枚方ボーイズ、県岐阜商を率いる名監督になるまで 鍛冶舎巧さん #1 【ぎふ高校野球・名将流儀】 「歩み」

2025年1月9日 16:00

高校野球は選手が主役であるのは言うまでもない。だが、その名選手たちを育成し、大舞台で躍動させる名指導者の存在は高校野球に欠かせず、高校野球は指導者で決まると言っても過言ではない。それぞれ独自の人材育成法や組織づくり、決断力、実行力はあらゆる世界での範とすべき示唆にあふれている。岐阜県高校野球史を彩った名将ならではの生きざまや考え方を「ぎふ高校野球・名将流儀」と題し、インタビューで迫る。

トップバッターは日本のアマチュア球界の第一線にあり続け、昨夏、母校県岐阜商の監督を勇退したが、現在、古巣の枚方ボーイズに戻って指導し、野球に情熱を燃やし続けている鍛冶舎巧監督(73)＝大阪府枚方市＝に独自の指導者論、高校野球について聞いた。第1回は「名将の歩み」。



日本のアマチュア野球の第一人者であり続けた自らの歩みを語る鍛冶舎巧さん＝大阪府枚方市の自宅

**鍛冶舎巧(かじしゃ・たくみ)** 1951年、揖斐郡大野町生まれ。岐阜商高(現県岐阜商)のエースとして69年選抜ベスト8。早大を経て社会人野球の松下電器(現パナソニック)で選手、監督。全日本コーチも務めた。中学硬式野球では、枚方ボーイズ監督として12年間で12度日本一になった。高校野球はNHK解説者を25年務め、同社役員を退任した2014年春、秀岳館高(熊本)監督に就任し、3季連続甲子園ベスト4。母校監督は18年春から24年8月末まで務め、春夏4度の甲子園に導いた。現在、枚方ボーイズ監督に復帰した。

—高校、大学、社会人と常にトッププレーヤーだった監督が指導者を志したのはいつですか。

**鍛冶舎** 高校の時は将来、指導者になろうとは思っていなかった。大学の時に選択肢の一つとして、高校の指導者になりたい思いもあり、教育実習を除いて、教職の単位を全て取った。

大学生の夏休みの練習がオフの期間に高校野球の指導に行った縁で、卒業したら監督として来てほしいという話がいくつかあったのも教職課程を取るきっかけになった。

大学4年の6月に高校の指導者になるか、社会人野球に進んで野球と仕事を両立させようか、プロ野球にいて頂点を極めようか、実は三つの選択肢の中で、どうしたものか相当悩んだ。

—大学卒で高校監督の可能性もあったんですね。

**鍛冶舎** 自分では大学3年まではプロに行くものだと思い込んでいた。大学4年生になり、実際に広島と近鉄(現オリックス)、太平洋(現西武)の3球団は「1位は高校3年の江川卓(元巨人)ではなく、君」というお話を内々いただいていた。

4年生の6月に大学全日本でアメリカ遠征に行き、世界にはこんな野球があるんだと、野球観が変わった。これが、日本が世界で勝つためにスモールベースボールではなくスケールの大きいパワーとスピードの野球を目指す原点になった。

当時、私はアメリカの選手より肩がはるかに強く、ドジャースタジアムで外野からバックホームでアウトにしたら、たくさんの現地記者が寄ってきて、「メジャーから誘われたら、どうする」と聞かれた。

当時は今のように日本人がメジャーでプレーするのは現実味がなかったが、全日本の4番だったし、その選手権大会で日本選手トップの3割4分6厘打っていたし、早稲田の先輩で、ドジャースの会長補佐のアイク生原さんがいたので仲立ちしてくれて、メジャーという道も冗談ではなくあった。

全日本のメンバーも、その年ドラフト指名された藤波行雄(中日1位)、山下大輔(大洋=現DeNA1位)、佐野仙好(阪神1位)、小林秀一(巨人1位)、楠城徹(太平洋2位)、後輩の田尾安志(中日1位)や中畑清(巨人3位)らも、みんな私はプロに行くものだと思っていたようだ。

—教員にならず、プロにも行かなかったのは。

**鍛冶舎** 6月に県岐阜商で教育実習をする予定だったのが、全日本のアメリカ遠征でできなかった。では11月という話になったが、その11月はプロか社会人かの話で、大騒ぎになってしまった。教育実習にいけばマスコミが押し寄せ、母校に迷惑がかかる状況だったので、いけなかった。

教職を取らなかったことで必然的にプロか社会人かに絞られた。だが、父親が会社の中の事故で脊髄損傷し、下半身不随になり、医者に「よくもって10年」と告げられた。父もその話を聞いて「10年たって、自分が死ぬ時に、巧が路頭に迷っているかもしれないと思ったら死んでも死にきれいな」と言われたこともあり、熟慮した結果、大きな会社に入って両親に安心してもらった方がいいのかなと考えた。



もちろん野球だけという人生の選択はしたくなかった事もあるので、プロに行かないで、仕事しながら社会人野球をやろうと決断した。そうしたら25社から一気に勧誘いただいた。その中から松下電器を選じたのは、松下幸之助創業者との出会いがあったからだった。



社会人野球・松下電器(現パナソニック)選手時代の鍛冶舎巧さん

—松下電器(現パナソニック)2年目に阪神に2位指名された。

鍛冶舎 阪神が強行指名した形になった。スカウト部長は「彼はもう大学の時に相当悩んで、プロの道は歩まないのを決めたから」と会議の席で発言されたようだが、当時の吉田義男監督が「私が説得する」と指名するよう指示したと後で聞いた。でも、その時はもう悩んでいなかったのでドラフト当日にお断りした。

そこから2回くらい、吉田監督にお会いした。マスコミに知られないよう当時二塁手だった早稲田の先輩の中村勝広さん(後に監督)に連れられ、吉田監督のご自宅にうかがった。「実はラインバックとブリーデンという選手を来週、アメリカに採りに行くが、あなたが入ってくれたらブリーデンを採らないつもりもある」と、そこまで具体的な話。ブリーデンはホームランを40本打つような選手だったから、これは真剣に考えないとともに思ったが、一度決めたことなのでアマチュアを貫いた。

吉田監督とは、ご自身がフランス代表チーム総監督をされたこともあり、世界のあちこちでお会いし、そのご縁も相まって今でも親しくさせていただいている。



ーパナソニックでの監督は。

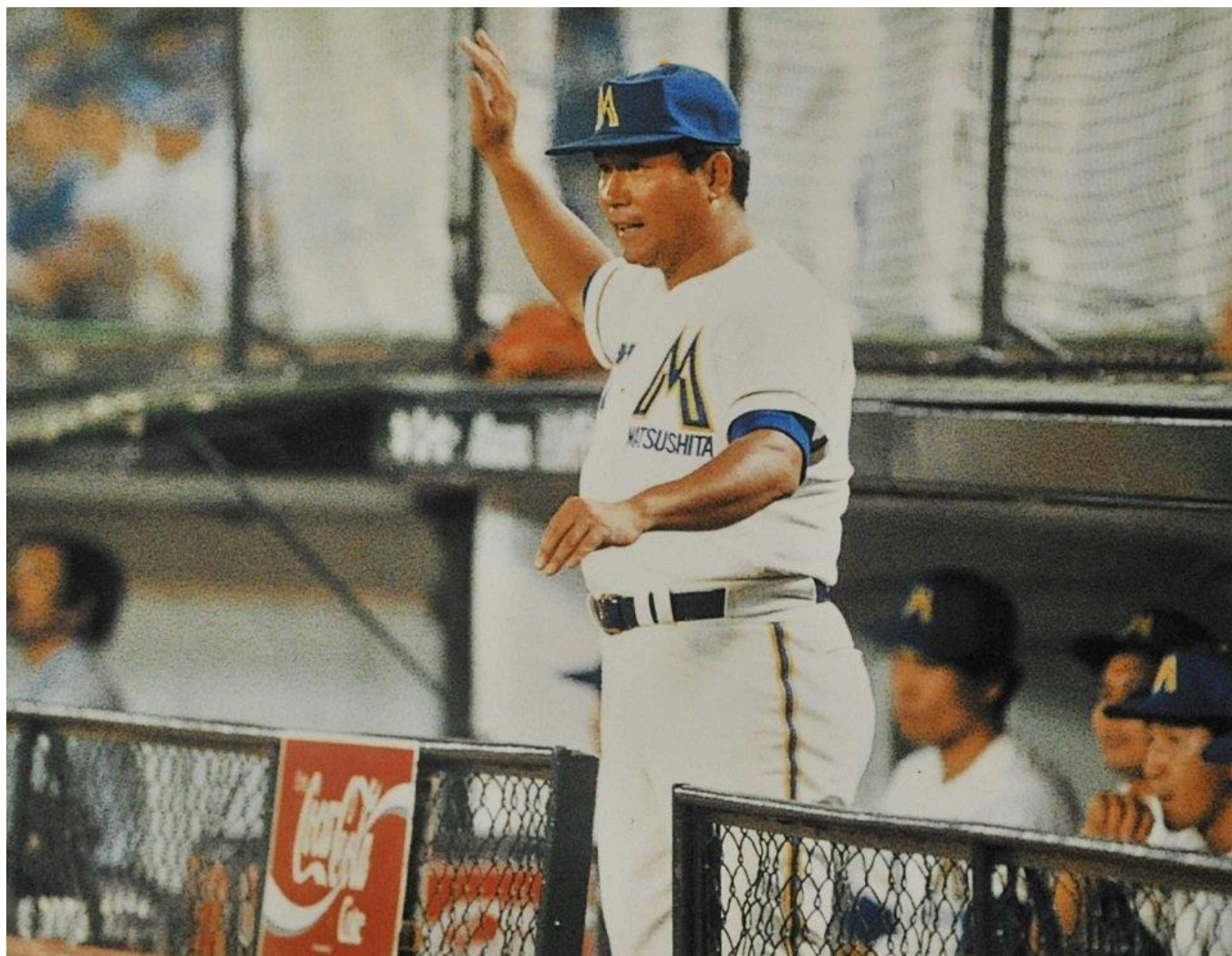
鍛冶舎 現役に打ち込んだので、そこから指導者には、あまり考えなくなった。7年間の現役の最後の3年間はキャプテンをやり、チームをまとめた。練習メニューや練習試合のオーダーを自分で考えたりしたことで「おもしろいな」と思った。

引退の後、コーチに決まっていたが、職場の上司に「鍛冶舎君。いつまで野球やるの？ 実は次の仕事を考えている」と言われ、コーチを断った。現場には次期監督と思っていたコーチがいなくなって困らせてしまうのではとも考えたが、いずれは職場復帰する。現時点で、仕事で期待されているならと、きっぱり、野球部を離れた。野球部関係者にはご迷惑をかけた。

3年たった時にNHKの高校野球解説と枚方ボーイズの監督の話が一度にきて、野球界に恩返ししろということかなと引き受けた。

枚方ボーイズは最初は月に1回でいいと言われたが、やってみると選手たちがかわいくて毎週行くようになった。NHK高校野球解説は、そこから足かけ25年続けた。

35歳の時にパナソニックの監督にと言われた。ちょうど課長代理に内定、仕事があるからと3度断ったが、当時の会長、松下幸之助さんの娘婿の松下正治さんが野球が大好きで「仕事があるから監督を受けられないのなら、転勤させたらいい」と本社転勤になり、結局、抵抗むなく(笑)40歳まで5年監督をした。



松下電器監督時代に都市対抗野球大会で指揮する鍛冶舎巧さん

—全日本のコーチもされた。

**鍛冶舎** パナソニック監督の2年目から全日本コーチを務めた。日本はロサンゼルス五輪以来、国際大会で優勝していなかったのが、パナソニック監督1年目にオール近畿のメンバーでジャパン代表チームとして10カ国対抗に監督として臨み、優勝した。

その成果も踏まえ、JOC強化スタッフとして日本代表チームのコーチに。ここでの経験も世界と戦うための日本の野球について考えるのに役立った。

そんな中、5年目の都市対抗準々決勝で東芝にコールド負けした時に上司の人事担当専務から「全日本もいいけど断って自分のチームをしっかりとやってくれ」と言われた。翌年、バルセロナ五輪なのに「パナソニックの社会に貢献することを経営理念に掲げる社是と真逆じゃないでしょうか。とはいえ組織人として上司である担当役員の指示に従えない責任を取り、両方やめます」と監督も全日本コーチもやめた。

—ボーイズの指導は。

**鍛冶舎** パナソニック監督時代の5年間にはできなかった。監督をやめてからは東京に転勤になったので、2年間は横浜中央シニアで指導した。

息子が入った前の週にそれまで監督だった倉持明さん(元ロッテ、ヤクルト投手)が辞任。「願ってもない人が入ってきた」と会長に言われ、監督をやる羽目に。息子と同じ学年に松坂大輔が江戸川南シニアにいて、対戦した試合で、コールド勝ちしたのが懐かしい思い出だ。

本社に戻り、上司である担当役員に恵まれて採用部長になり、労政部長をやって大規模な全社一斉早期退職優遇制度導入やOB含めた企業年金改革をやったが、身を切る改革で、自分自身も2カ月ごとに退職願を書き直して胸ポケットに忍ばせていた。

まさしく心身ともに疲れ果てた。見るに見かねた中村邦夫社長から広報部長として東京転勤を言い渡された。27年続けた人事部門から、まるで畑違いのコミュニケーション部門への転勤、振り返ると自分に合っている異動でもあった。節目、節目でいい指導者に巡り会えた。

その後、専務になったが、高校野球の監督という生涯の夢を捨てきれず、同じ専務で5歳年下の津賀一宏社長就任を契機ととらえ、1年後、役員退任を申し出て、2014年4月、秀岳館(熊本)の監督になり、2018年には母校県岐阜商の監督になった。=つづく=(聞き手・森嶋哲也)